

2008 年

8 月 4 日（月曜日） - 市民とともに京丹後の未来を豊かにひらくかけがえのない英知の力「京都工芸繊維大学 京丹後キャンパス」 -

本日、京都市の京都工芸繊維大学の竹永副学長先生はじめスタッフの皆様、学生の皆様の総勢 30 人近い皆様により、本市の京丹後キャンパスにおいて「京丹後起業アイデアコンペ・オリエンテーション」を実施していただきました。この「起業アイデアコンペ」ですが、昨年度から京都工芸繊維大の皆さんと連携して実施していて、本市の特色や地域資源を事業の起業の材料にすることを前提に、本市の産業や起業をどのように創造できるか、大学で学ばれる若者の新鮮で現代的な発想と知恵でそのアイデアを競っていただく取組みです。昨年度も 20 件の応募があり、このうち最優秀となった商品アイデア（ちりめんエコバッグ）は現在、商標及び意匠登録の申請中で、今後、企業への売り込み等も行っていただく予定であり、このコンペ等を通じ大学生の皆さんとの協働による本市の産業の創造的な活性化が今後とも一層図られることとなりますよう、ますます期待をしているところです。

京都工芸繊維大学は、ご案内のとおり、工科等の分野で京都や関西では屈指の素晴らしい大学であり、平成 17 年 12 月に京丹後市との間で、相互の発展を期し包括的に互いに連携協力していくことを宣言した協定を締結させていただきました。この協定を背景に、平成 18 年 9 月、地域連携センターとして「京丹後キャンパス」を開設いただきましたほか、現在まで、多くの取組を積極的に連携・協働して行っていただいております。本当に意義高く、本市の社会産業の未来を豊かにひらいていく上でかけがえのない力をいただいております。

主なものだけでも、1 産業の分野で、上述の起業コンペのほか、①市内企業との技術開発共同研究、②先生方による経営学講座、技術・経営相談会、フォーラム開催、③市内企業への学生インターンシップ派遣、④観光案内サインデザイン、案内板の作成、⑤地元焼酎の開発アドバイス（京都府事業）などを、2 まちづくりの分野で、⑥あじわいの郷等におけるウッドデッキ製作、⑦工業団地内の壁画制作、⑧市立病院内の快適なレイアウトデザインの提案などを、そして 3 教育の分野では、⑨インターンシップの学生の皆さんによる地元小中学生の勉強を見る会の実施、⑩教授陣の皆様による地元三高校、中学校（弥栄）、小学校（丹波）の生徒に対する科学技術、理科等の分野の体験的、探求的な講義・実習教室の開催（文部科学省の経費支援）など、当市の産業界から子供たちの教育・育成に至るまで各般にわたりその一層の発展と活性化のため、教授陣はじめスタッフの皆様の全国トップレベルの優秀な英知の力、若者のエネルギーな知力と活力をいただいて、先導的な取組みにご指導や協働作業を賜っているところです。

本市市民との連携の拠点にいただいている京丹後キャンパス（網野町）には、開

設以来約2年の間に、延べ約3500人の教授スタッフ、学生等の皆様が利用され、約1500人が宿泊をしていただいております、大学の皆さんと本市市民が広く交流を進める本格拠点として、また、本市市民が真に親しむ市民キャンパスとして、大学・市民間の協働活動をますます展開していただいている状況に、心から頼もしく心強く、深く感謝しております。

我々京丹後のまちづくりを展望する上で、地理的条件等の常識的な意味でのハンディを今後有利に転化克服していくためには、どうしても、①少子高齢化を反転させるための、若者が学び居住する場としての大学等の高度な教育機能の立地、②創造的な産業発展を支え導くための、技術基盤としての研究・技術開発等の知的インキュベーションが欠かせませんが、京丹後キャンパスの実現と積極的なご支援により、このような機能をますます果たしていただいております。これにより、本市として、地理的条件等のハンディを逆に大きな奇貨とし、当市の豊かな自然環境や健康環境などの特色をより有効・体系的に活用することができる知的、人的環境が一躍整いつつあるわけですが、今後とも、京都工芸繊維大学全学のより多くの皆様に京丹後キャンパスをますますご活用いただき、大学の皆さんの優れて富む英気の力、はじけるような若々しい生長の感性と力をもって、ますます益々、京丹後の特色あふれる魅力のまちづくりを瑞々しくリードしていただき、市民との協働の絆でもって未来をいよいよ豊かにひらいていただきたいと心から希望しています。